

第79回 関東大学サッカーリーグ

王者奪還に向けて

駒大サッカーが走り出す!



KOMAZAWA UNIV.

CLUB DATA

「創立」1931年

「練習場」二子玉川グランド

東急田園都市線「二子玉川駅」下車。改札を出て左、バス乗り場「砧(きぬた)本村行き」、終点下車、徒歩1分。発車間隔は15分~30分。渋滞状況により時間は変動。バス停を降りると目の前が駒澤大学二子玉川校舎。

「監督」秋田浩一

「過去6年間の主な獲得タイトル」

関東大学リーグ優勝(02、03)、関東選手権優勝(97)、全日本大学サッカー選手権優勝(97、01、04)、総理大臣杯優勝(97、02、03、04)

昨年、3連覇に挑んだリーグ戦は3位に終わり、同時に三冠の夢もはかなく散ってしまった。今季、キャプテンには駒大の守護神・牧野が選ばれ、怪我に泣かされた昨年の屈辱を晴らす。キャプテン、そして駒大サッカー部の今季リーグにかける思いは強い。

総理大臣杯では前人未達の三連覇を果たし、全日本大学サッカー選手権大会では3年ぶりの覇者となった昨年。名実共に大学サッカーの頂点と言える駒大だが、あくなき追求は絶えない。今季キャプテンとなった牧野は昨年の開幕戦から故障が続いた為、出場機会に恵まなかった。しかしリーグの終盤から顔を出すようになり、デンソーカップでは関東BのGKに選ばれデンソーカップチャレンジサッカー新居浜大会では優勝に一役かった。ゴール前での果敢な飛び出しと堅実な守備、そしてチームへの的確な指示にキャプテンシーが光る、勝利にそしてチームの為に大きく貢献してくれるのは間違いない。

前季リーグの黒星試合の敗因は接線をものでできなかったことが多いにある。特に上位陣に対して白星を挙げていない。筑波大、流経大共に1勝もできなかった。大事な場面での決定力不足も露呈した。昨年は負けられない試合が続く、勝ちにこだわりすぎて逆にフィニッシュの制度が欠ける試合が多く見られた。自力優勝も狙える射程内の余裕も必要だった。

今年は三冠へ越えられなかった壁を越えて行って欲しい。本来の駒大サッカーができればきっと壁の先へと私たちを導いてくれるはずだ。

~ 昨年のリーグ戦戦績 ~

- 1節 流経大3-4中嶋、原、大澤
- 2節 順大5-1小林竜、赤嶺、新川、原、中嶋
- 3節 中大7-0赤嶺3、小林竜、原2、八角
- 4節 亜大3-0原3
- 5節 東学大2-0鈴木祐、東平
- 6節 国士大0-1
- 7節 筑波大1-3小林亮
- 8節 順大3-0中嶋、赤嶺、鈴木亮
- 9節 東学大1-0中後
- 10節 亜大4-1亜大最上、中後、巻、八角
- 11節 中大3-3中嶋2、赤嶺
- 12節 流経大1-2赤嶺
- 13節 筑波大1-2鈴木亮
- 14節 国士大2-1中後、大澤